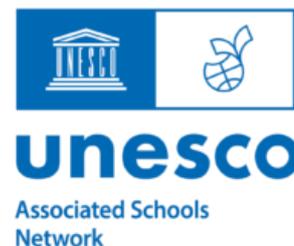


TOMIYA UNESCO NEWS LETTER

令和7年度 第4号 ユネスコ企画部発行 2026年2月



2学年課題研究

◎中間発表会

12月18日(木)5・6校時に、宮城大学の石内鉄平教授と高山純人准教授をお招きし、中間発表会を行いました。地域課題に対する富谷市役所の取組を調査し、地域課題の解決策について考察した内容を中心に、各グループが研究内容を発表しました。特に、富谷市職員による特別講義での学びや、アンケートの結果と分析を研究に反映しているグループが多く見られました。

◎1・2学年合同課題研究

1月15日(木)の5・6校時に、1年生と2年生が合同で課題研究を行いました。この時間は、互いの視点を取り入れながら研究内容を見つめ直し、考察を深めるための大切な機会となりました。2年生にとっては、これまで積み重ねてきた研究を振り返り、1年生から新たな視点や意見を得ることで、研究の方向性を磨く貴重な時間となりました。1年生にとっては、上級生の研究の進め方や工夫を実際に見たり聞いたりすることで、今後の課題研究の見通しを立てる良い学びにつながりました。

◎ユネスコスクール東北セミナー

1月31日(土)、東北大学環境科学研究科にて開催された「ユネスコスクール東北セミナー」に、本校の課題研究総務部チームと市民生活部チームからそれぞれ1班ずつ参加しました。東北地方の他校とともに、これまでの研究成果を堂々と発表しました。多くの方々の前で繰り返し説明し、直接質問や助言をいただくことで、自分たちの課題を多角的な視点で見つめ直すことができました。自分たちの発表後は、他校のブースを回って発表を聞きました。同世代の熱心なプレゼンテーションに触れ、研究のまとめ方や伝え方について多くのヒントを得たようです。



◎マイプロジェクトアワード 宮城 summit

2月1日(日)、本校2年生20名が「マイプロジェクトアワード宮城 summit」に参加しました。本校2年生が進めている富谷市のさまざまな課題に取り組む「仮想市役所」としての課題研究の成果を外部に発表する貴重な機会となりました。会場となった AER5階 仙台市中小企業活性化センター多目的ホールには、県内の高校生200名近くが集まり、いくつかのグループに分かれてそれぞれの研究成果を発表し、意見を出し合いました。



発酵甲子園 mizkan 賞 受賞ツアー

12月11日・12日の2日間、第1回発酵甲子園サステナブル賞(mizkan 賞)の受賞ツアーとして、愛知県半田市を訪問しました。

【1日目】まず、発酵食品である「たまり醤油」を製造・販売している中定商店を訪れ、発酵の現場を見学しました。重要な行程である「くみ掛け」も体験させていただき、職人の技や発酵の奥深さを間近で感じられ、非常に貴重な体験でした。その後、半田市の歴史を物語る赤レンガ建築を見学し、地域に根付く発酵文化の歴史について学びました。さらに、食事では赤酢を使った「再現寿司」を実際に味わうことができ、発酵の魅力を体験しました。

【2日目】ミツカンミュージアムを訪れ、株式会社ミツカンの企業理念や、企業の取り組みを直接知ることができました。半田市がどのように発酵文化を継承してきたのかを学び、ミツカン本社にも足を運ぶことができました。

この2日間は、発酵文化の奥深さを学ぶ非常に充実した時間となりました。今回の経験を、富谷市の発酵文化とのつながりや、今後の課題研究に活かしてほしいと思います。本ツアーを企画していただいた株式会社 Mizkan の皆様、半田市観光協会の皆様、富谷市役所産業観光課の皆様に、心より感謝申し上げます。



とみやわくわく子どもミーティング

12月15日(月)、富谷市役所で行われた「とみやわくわく子どもミーティング」に本校の2学年の生徒4名、1学年の生徒2名が参加しました。今回のミーティングは、「子どもにやさしいまちづくりについて」をテーマとして富谷市内の小中学生15人が意見交換を行うもので、本校生徒はミーティングのファシリテーターを務めました。富谷市の未来、特に富谷市が制定を目指している「(仮称)富谷市子どもにやさしいまちづくり条例」を含めた一連の活動について、児童たちならではの意見を聞き、本校の生徒たちにも良い刺激になったようです。ミーティングの中で児童たちとも仲良くなり、学びの多い充実したイベントとなりました。

